

「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」

第2回プロジェクト運営推進委員会 議事要旨

1. 日時：2023年12月7日（木）16時00分～17時00分
2. 場所：各自室（WEB形式）（会議主管：大阪公立大学医学部）
3. 出席者：

近畿大学医学部	中川、林、福岡、松尾、高濱、西郷、伊藤、竹上、森田、清水
近畿大学理工学部	西郷、川下、山田
近畿大学情報学部	半田
大阪公立大学医学部	川口、渡邊、金田、藤田、福岡
大阪公立大学看護学部	田中（京）、林田、徳岡、田中
神戸大学医学部	南、金原、浅野、河村、中邊
神戸大学医学部保健学科	副島、山田
関西医科大学医学部	谷川、伊藤、加藤
兵庫医科大学医学部	栗林、藤原、森下

（敬称略）

1) 各大学・各学部の状況の確認

近畿大学	医学部	林先生
近畿大学	理工学部	西郷先生
近畿大学	情報学部	半田先生
大阪公立大学	医学部	金田先生
大阪公立大学	看護学部	田中先生
神戸大学	医学部研究支援課	浅野様
神戸大学	医学部保健学科	副島先生
関西医科大学	医学部	谷川先生
兵庫医科大学	医学部	栗林先生

上記の先生方が各学部による大学院のコース設定や開講にむけての現在の進捗状況を報告された。

一次募集が終了しこれから二次募集をかける大学が多く、各大学で入学者が増えるように案内をかけている段階であった。

2) TF ごとの状況の確認

【TF1について】 【資料1】

（近畿大学医学部 高濱先生）

《タスクについて》

TF1では、痛みのケア・放射線治療・分子病理の人材育成をタスクとしている。それらと同時に免疫関連の有害事象等を中心に対応が求められている学際領域、がんの診療科との連携も目的としている。またそれぞれのタスクフォースに紐づく大学院コースにおいて、がんプロ人材が予定通りに育成されているかを管理するのもタスクの1つ

である。そのため養成目標人数を充足できるのかという部分もフォローを続ける。

《対応策について》

対応策の1つとしてインテンシブコースでも、神戸大学や兵庫医科大学の進めるプログラムをフォローする。他の対応策として大学、施設と連携しながら免疫関連の有害事象の対策について知識を共有する、imNET5 というミーティングの開催を予定している。

【TF2 について】 【資料2】 (大阪公立大学医学部 川口先生)

10月23日(月)に開催された第1回TF2委員会の内容について、議事録に基づき報告があった。

《各大学の活動内容について》

第1回TF2委員会で各大学の先生方が話されていた活動内容を要約して共有された。

《第1回ビッグデータを用いたがん予防医療国際シンポジウムについて》

2024年3月1日に大阪公立大学大学院医学研究科 学舎4階 大講義室で開催予定の第1回ビッグデータを用いたがん予防医療国際シンポジウムについての詳細が共有された。そこでProf. Redman先生には「肺がんをテーマとしたビッグデータに関する分子メディカル研究」に関しての基調講演をしてもらう予定であることが報告された。

【TF3 について】 (神戸大学医学部研修支援課 浅野様)

各大学・各学部よりメンバーが選出され、委員名簿が完成された。また12月14日(木)18時より第1回TF3委員会を開催予定とのこと。

3) e-learning について 【資料3】 (近畿大学医学部 高濱先生)

《e-learning の概要について》

「がんプロ全国オンライン教育プラットフォーム」の仕組みについて説明があった。第1～3期の他拠点でのがんプロ事業では、登録者数11,023人・収録時間200,000時間を超えるコンテンツが収録されていた。第4期では1～3期で収録されたコンテンツの有効活用と第4期として新しく追加されたテーマに沿ったコンテンツの拡充という2つの話が進んでいる。

今後筑波大学様と連携しながら、過去のコンテンツの利用・必要なコンテンツの追加を進めていく。

《e-learning コンテンツ作成の進め方》

TF1～3に沿ったジュークボックスを各拠点から用意し、各ジュークボックスに6～10コマの講義項目(大項目)を設定し、全国共通とする。各講義は15～20分を1チャプターとして、4～5チャプター(=合計75分～100分)で構成される事を基本とする。(1人が75分担当しても、チャプターで分割しても良い)

《今後の流れ》

コアメンバーで既に収録済みのコンテンツからコア部分の講義を取捨選択し、必要な講義の内容やコマ数を決定する。また第4期のテーマに沿った新規コンテンツを、近畿大学医学部林先生・大阪公立大学医学部金田先生・神戸大学医学部金原先生を中心に作成する。

説明に対し、大阪公立大学医学部 川口先生より以下質問があった。

・がんプロ大学院生に共通の講義を聞いてもらうのか、各大学、学部ごとに決定するのか？

⇒システムとしては各大学院コースで細かくコンテンツを指定することも可能である（近畿大学医学部 高濱先生）

そこで近畿大学医学部 高濱先生より各大学の先生方に以下質問があった。

・がんプロ大学院生に共通の講義を聞いてもらうのか、大学院コースごとに細かく設定するのか？

⇒各論的な勉強は単位関係なく自由に勉強できることから、がんプロで必要とされる総論的な部分を重要視するべきではないかと感じている。
（近畿大学医学部 林先生）

⇒林先生と同じで総論的な部分を重要視する方向が良いと感じている。

（近畿大学理工学部 西郷先生）

⇒医学の部分とあまり関係の無い分野を学ぶ生徒もいることから、コアな科目を取れると良いと思う。

（近畿大学情報学部 半田先生）

⇒これまでの共通特論は全学生が全て同じ科目を取得していたが、ハードルが高いと感じる生徒もいたはずであるから、コースごとで取捨選択しながら単位に必要な講義数を作成する方が良いと思う。その中で全員学ぶべき基本的な部分は必須とし、後は自己研鑽でジュークボックスを選択していくと良いと感じている。

（大阪公立大学医学部 金田先生）

⇒申請書に提出している内容と矛盾が無いようにするべきだと思う。

（大阪公立大学看護学部 田中先生）

⇒共通特論とは名称を変更し、申請書には全員が同じ科目を受講するとの記載は無いため矛盾は起きていないと考えている。しかし前回の共通特論とあまりにも離れてしまわないように、総論的な部分で内容を揃えていきたいと感じている。

（近畿大学医学部 林先生）

⇒共通特論のコンセプトに合うものになれば良いと思う。

（神戸大学医学部 南先生）

⇒がん看護に関する部分は各大学のそれぞれの科目でカバーし、最新の治療や医療ケアの部分は共通の科目として設定することが良いと感じている。

（神戸大学医学部保健学科 副島先生）

⇒それぞれが各自で選択できることは魅力的であると感じている。

（兵庫医科大学医学部 栗林先生）

⇒共通の総論の部分を必須科目として重要視していきたいと感じている。

（関西医科大学医学部 谷川先生）

《今後の予定》

・大阪公立大学看護学部の教員が選出され次第、コアメンバーで既に収録済みのコンテンツからコアな部分の講義を取捨選択していく。

4) 外部評価委員会について

（近畿大学医学部 林先生）

・毎年外部からのがんプロの活動についての取り組みについて評価をいただいている。具体的に第3期では、大学

院生の入学数・インテンシブコースへの入学数・人材育成のためにどのようなセミナーを開催したのか・専門医等の人材の育成人数等、数値として評価されていた。そのため、毎年数値で評価されることを意識してがんプロに取り組む必要がある。また評価委員の先生についても報告された。

外部評価委員会次回日程：3月5日（火）17時～ オンラインにて開催予定

・その他

次回会議主幹は大阪公立大学看護学部に提案され、田中先生より了承頂いた。